



日高悠遊倶楽部の事業に40名が参加 日高産食材で「そば打ち」を体験！

日高悠遊倶楽部では「そば打ち教室」が開かれ、町内の他、札幌や苫小牧の会員ら約40名が参加しました。町内在住の6名の方を講師に招き、平取産そば粉、日高悠遊倶楽部の事業である「田んぼオーナー事業」をしている上富良野産の小麦粉、天ぷらは、町内産軟泊ネギ、町内産シイタケ、ゴボウ、マイタケ、ピーマン、サツマイモなどを使用しました。

日高悠遊倶楽部では、この後も「冬のスキー、スノーバスツアー」を1月から3月まで毎月1回開催予定だということです。



ケイセイマサキ建設様へ感謝状を贈呈 学校施設修繕ボランティア活動に尽力！

10月26日、役場町長室において、ケイセイマサキ建設株式会社様に対する感謝状の贈呈が行われました。

この度の贈呈は、同社が町内の学校施設の修繕をボランティア活動により行っていた事によるもので、主には、学校校庭の砂場補修や、庭石などの移設工事、フェンスや池などの補修工事を行っていただきました。

町長から感謝状を受け取った正木社長は、「地域のためになればと思っています」と話していました。



「地方自治体債権管理実務研修会」を開催！ 滞納額減少へ向け、町職員らが受講！

町職員を対象とした研修会「地方自治体債権管理実務研修会」が門別公民館で開催され、日高町職員その他、胆振日高管内の税金・税外収入担当職員らが参加しました。

この日講師として招いた赤平市職員の山森氏は、税務課職員時代には、多額の債権回収のために北海道市町村第1号となるインターネット公売を導入するなど、その行動力により成果をあげられ、現在は公営住宅料の整理回収業務に携わっています。

山森氏は、「まず、自分が動くこと！」と、参加した職員らに自らの体験から、そのノウハウを伝え、檄を飛ばしていました。

地域の安心・安全のため新車両導入 消防署日高支署に高規格救急自動車！

日高西部消防組合消防署日高支署に高規格救急自動車が配備され、11月9日から運用開始されました。

新たに配備された高規格救急自動車は、従来運用していた救急自動車に比べ、走行時の安定性が高く、振動等も軽減されることから、患者への負担が解消されます。

また、高度救命処置用資機材が配備・積載されましたので、今まで以上に幅広く、迅速かつ高度な処置ができるため、さらなる救命率の向上が期待されます。





北海道山岳連盟日高登山研修所で記念式典 開設10年に道内各地から岳人100人

11年前に閉校した千栄中学校を利用した北海道山岳連盟が運営する道内唯一の登山研修施設「日高登山研修所」が開設10年を迎え、10月31日～11月1日に、道内各地から岳人100名が集い、記念式典・クライミングコンペ・講演会等が開催されました。開設以来、会員だけでなく、小中学生を対象とした少年少女登山教室を開催するなど青少年の登山教育にも活用されてきました。

10月31日は、開設以来、今年3月まで周辺整備に尽力された日高町の下笛貴夫・ヨシ子夫妻外2名に感謝状が授与されました。11月1日には日高山脈館職員の東氏が「日高の地質」と題して講演を行いました。

直売所「アン・アン」今季の営業を終了 農産物の直売、「たまねぎ詰め放題」も！

日高町農産物直売振興会(下村敦子会長、14戸)が運営し、今年開設9年目となった日高地区農産物直売所「アン・アン」の今季の開設が10月31日をもって終了いたしました。

最終日は「ありがとうセール」と題して、漬物野菜の格安販売や、玉ねぎの詰め放題などが行われ、多くの町民が訪れていました。

10年目となる来シーズンは6月1日開設予定です。



VOICEのお二人がチケット売上金を町へ寄付

同級生の企画で「VOICE LIVE」開催！

11月1日に富川公会堂で行われた「VOICE Live Tour 2009 IN TOMIKAWA」の売上の一部を教育振興寄附金として寄付するため、2日、VOICEのお二人が町長室を訪れました。

お二人は、小学校の2年間で富川小学校で過ごしており、一昨年開催の「門別ししゃも祭り」でお二人がライブを行った事をきっかけに当時の同級生らが企画して昨年から日高町でのライブを行っています。同級生らと一緒に町長室を訪れたお二人は、「2年しか居なかったが、こうしてコンサートを企画してもらえることはとても嬉しい」と話していました。



里平小学校の山村留学

全道へ向けてテレビ放映される！

10月27日、HBCテレビ「THE・NEWS」の中で、里平山村留学推進協議会(青木賢一会長)が取り組む「山村留学」の活動について、里平小学校での授業風景や学芸会の様子、地域の人たちへのインタビューなどがテレビ放映されました。

このテレビ放映のために、HBCテレビのスタッフが二度にわたり来校され、取材を行いました。

たった一人の山村留学生、肱元くん始め5名の全校児童は、普段見慣れていないスタッフや撮影機材などに戸惑いながらも、堂々とした態度で取材を受けていました。